

3月、課長級職員に数人ずつに集ってもらい、市長とのミーティングを実施しました。その中の消防職員とのミーティングでの話です。

1人 1カ月 1時間、地域に関わろう

人は、自分が必要とされる場所、褒めてもらえる場所、そして楽しそうなところに集まってきます。

大抵の男性の場合、「必要とされる居場所」「褒めてもらえる場所」は、職場ではないでしょうか。でも、リタイア後、あなた方にそうした場所がありますか？

現役で働いている人達は、忙しいから、地域の活動に積極的に携わることは難しいと思います。だから、現役の間は、地域の行事等は手伝うけれど、役員は免除する。でも、その代わりに、リタイア後には、必ず、地域の自治会や子ども会などの地域活動に携わってもらうことを約束してもらうというのはどうでしょうか。地域活動の対価として、ポイントを付与するなどの仕組みもあるといいと思います。

こうした活動を10年、20年と続けていけば、長久手は絶対に変わります。そうした「自分が必要とされる場所」を探して、人は移動していきます。長久手の地域創生は、「あなたは、このまちに必要な人なんだよ」というまちづくりをすることだと私は思っています。

今年2月、市主催で「農をテーマとするまちづくりシンポジウム」が行われました。基調講演は、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授の秋山弘子先生によるもので、高齢者になっても地域との関わりを持ち、いきがい、やりがいのある暮らしづくりについてを「農」を通じて講演していただきました。その講演の中で、東京大学では、今、「自分のまちで、1人1カ月1時間、地域のために何かをしよう！」というキャンペーンを考えているという話を伺いました。

1カ月1時間、地域に関わるとは、例えば、2分×30日間、毎朝、あいさつをしたり、15分×4日間（週1回）、地域のごみ拾いをしたりすることです。この取り組みは、地域に出るきっかけとして非常に良いと思いました。特に男性は、リタイア後、地域に友達や居場所がない方が多くいらっしゃいます。若いうちから、短時間でも地域とかかわりを持つことが、将来の自分の居場所につながるはずです。

講師の方は、この取り組みをまず、小学生から始めると良いとおっしゃっていました。すると、子どもが「お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんは何をする？」と周囲に聞き、次第に地域に波及していくからだそうです。

私が思うに、こうした地域の活動が盛んになるためには、問題や課題があり、常に完成していないということも大切かもしれません。例えば、みんなで使う施設の障子が破れてビロビロになっていたら、そのビロビロな障子を見て、「何とかしなちゃ」と人が集まってきます。完成していないところに人は集まってくるものなのです。

～市長の話を聞いて～

「1カ月に1時間、地域のために自分だったら何をするだろう」と考えてみました。

一番簡単なのは、毎日のあいさつ？ 歩いて行く買い物ついでのごみ拾い？ 秋なら公園の落ち葉掃除？ 子ども会の廃品回収のお手伝い？ 公園でラジオ体操を始めてみる？

まずは、家族で、ご近所で、「自分なら何ができるかな」と考えることから始めるのがいいかもしれません。